

お月見

お月見とは、一年の中で最も空が澄みわたる旧暦の8月に美しく明るい月を眺める行事のことで「十五夜」とも言います。

◆毎年、十五夜は日にちが変わる◆

もともと十五夜は旧暦の8月15日とされていました。新暦で表すと月遅れの9月15日を十五夜と思う方も多いですが実は、その年によって日にちが変わってきます。

月の満ち欠けを基準にしていた旧暦と、太陽の動きを基準にしている新暦では1年の始まる日も1年の長さも異なります。

そのため旧暦と新暦にズレが生じ、実際は毎年9月中旬～10月上旬の間に十五夜がくるとされています。月の満ち欠けの周期も一定ではないため十五夜と満月の日もズレる事があります。**今年の十五夜は10月1日、満月は10月2日です。**

◆「中秋の名月」と「仲秋の名月」の違い◆

十五夜は、別名「中秋の名月」とも呼ばれ秋の真ん中に出る月という意味があります。旧暦では7月、8月、9月を秋の季節とし、7月を初秋、8月を仲秋、9月を晩秋と定めていました。つまり、仲秋とは8月のことなので「仲秋の名月」は「8月の名月」になります。

中秋とは「秋のちょうど真ん中の日(旧暦の8月15日)」のことです。そのため十五夜のときは「中秋の名月」とかくことが多いのです。

◆お月見の風習とお供え物◆

お月見には、美しい月を眺めるだけでなく、収穫に感謝して月に見立てたものや収穫物をお供えする風習もあります。それぞれお供えするものには意味があります。

ススキ:秋の七草のひとつで、悪霊や災いなどから収穫物を守り

翌年の農作を願う意味があります。

お団子:月に見立てたお団子をお供えすることで月に感謝を表します。

十五夜では15個、ピラミッドのように積みます。

農作物:お月見は豊作を祝う行事でもあるので里芋、栗など収穫されたばかりの農作物をお供えし収穫に感謝します。

今年はお月見と満月の日が別ですが、十五夜の日にお月見をする事が一般的だそうです。

<https://www.yamada-heiando.jp/media/tsukimi/>参照